

# 「了解」の意味の変遷—19世紀末から現代にかけて—

中山健一(筑波大学／東京外国語大学)

## The Change in the Meaning of *Ryookai*

: From the End of the 19th Century to Current Japanese

Kenichi Nakayama (Univ. of Tsukuba / Tokyo Univ. of Foreign Studies)

### 1. はじめに

現代日本語(東京方言)における「了解」は、次の例のように、他者の行為、あるいは要求・申し出などを理解し、承認・承諾するという意味で使われることが多い。

(1) その日から、私は内藤と朴との王座決定戦を実現するために動きはじめた。私がまず第一にしなくてはならなかったのは、内藤をはじめとする全員に「了解」をとることだった。これには問題がなかった。私の説明に対して、朴が若く未知のボクサーであることへの不安は表明されたが、決定戦そのものへの反対意見は出されなかった。(沢木耕太郎 一瞬の夏)

しかしながら、明治大正期の書き言葉では、現代語では「理解」を使うような文で「了解」が使われていることが多い。例(2)は、物事の理解を表しており、承認・承諾の意味は含まれない例である。

(2) 幸にして先生の予言は実現されずに済んだ。経験のない当時の私は、この予言の中に含まれている明白な意義さえ「了解」し得なかった。(任意採集 夏目漱石 ころろ)

このように、明治大正期の「了解」の意味と、現代語での「了解」の意味には、違いがみられるようである。本発表は、「了解」の2つの意味、便宜的に他の語へ言い換えるのであれば、「理解+承認」の意味と「理解のみ」の意味の2つの意味の、どちらの意味で使われるのかについて、コーパスを用いて、通時的な調査を行なうことを目的とする。

### 2. 先行研究—辞典類の記述—

管見のかぎり、「了解」の語義、およびその変遷に関する論考は見当たらなかった。本発表では、先行研究における「了解」の語義の捉え方として国語辞典の記述を挙げる。同時に、複数の漢字表記の扱いについてもまとめる。

中型国語辞典として、ここでは「学研国語大辞典」と「大辞林」の語釈を挙げる。

・「学研国語大辞典」

りょうかい【了解】【諒解】【領解】【領會】《名・他サ》 物事の筋道・理由・意味などをよくのみこむこと。さとること。また、理解して承認すること。「一に苦しむ」「伸子はその作を書いた衷心の事情が分れば、ある一が得られるだろうと<宮本・伸子>」「議決権なきものと一緒にします<城山・総会屋錦城>」(類)了承

・「大辞林」

りょうかい【了解】【諒解】(名)スル<sup>1</sup> ①事情を思いやって納得すること。理解すること。のみこむこと。了承。領解。領会。「事情を一する」「一できない」

②無線などの通信で、通信内容を受け取ったことを表す語。「『ただちに行動を開始せよ』  
『一』」

③ [哲学の専門用語 略]

※加えて、空見出し「了解①」に同じ」として「りょうかい【領解】」と「りょうかい【領会】」を立てている。

以下、これら2つの辞典の記述をもとに、語義、漢字表記、品詞についてまとめる。

まず、語義について、「学研」では、「理解」としての意味を挙げたのち、「また、」として「理解+承認」の意味を挙げている。「大辞林」では「①」の意味では「理解」としての意味の説明のみだが、別語への言い換えの1つとして「了承」を挙げている。

このように、国語辞典の記述では、本発表で問題とする「了解」の2つの意味を別義とは捉えていないものの、両方に対して言及がある。

次に、漢字表記について、【了解】【諒解】【領解】【領会】の4つの表記が挙げられている。これら4つの表記での意味の違いには言及はない。

最後に、品詞について、語釈の前の品詞情報にあるように、名詞、および、「了解する」という形での動詞として使われるのが主である。それ以外に、「大辞林」の「②」の語義のように、感動詞的に使われることがある。

### 3. 調査の観点・方法

2節を踏まえて、本発表の調査の観点と方法を述べる。

#### 3.1 「意味」の捉え方

一般に、ある1つの語が性質の異なる物事を指し示しうる。その場合「意味」が違う、つまり別義といえる場合も、同じ「意味」として括れるが用法・ニュアンスが違うといえる場合もある。しかしながら、両者の線引きは容易ではなく、線引きの方法について明確な答えを発表者は持っていない。

本発表では、先の例(1)のような使われ方と例(2)のような使われ方のどちらで使われているか、通時的調査を行なうという目的にかんがみ、「了解」の、「理解」としての使われ方と「理解+承認」としての使われ方を、「意味」の違いとして論を進めることとする。

#### 3.2 表記の違い

2節でも述べたように、表記としては、【了解】【諒解】【領解】【領会】の4つが考えられるが、それぞれを別語ではなく、同一語の異表記として扱う。ただし、表記の違いが本発表で問題としている意味の違いと相関があることも考えられるので、実例分析は表記を区別したうえで行ない、意味との相関の有無を調査する。

以下では、「了解」とカッコ書きにした場合には、「語」を表わすものとし、上記4つの表記の代表形として扱う。それに対し【了解】【諒解】など、墨カッコを使う場合には、「表

<sup>1</sup> 「品詞情報」の「(名)スル」は、名詞のうちサ変動詞としても使われるものを表わす。

記」を表わすものとし、それぞれの異なる表記を指すものとする。

### 3.3 品詞の違い

品詞の違い(名詞か、動詞か)は、意味の違いと相関がある可能性がある。そのため、実例分析は、品詞を区別して行なう。名詞・動詞以外に 2 節で挙げた「大辞林」の「②」の語義のように、感動詞的に使われることがある。これは無線通信の場合に限らず、日常的な話し言葉でもよく使われる。本発表では、この種のものを「大辞林」のようにまったくの別義として捉えることはしないが、他の例とは区別して扱う。

### 3.4 対象とする年代と媒体

調査対象は、明治後期以降とする。それ以前の言語資料は調査対象とすることができなかった。また、媒体は、書かれた言語資料とする。書き言葉に限定する理由として、言語資料(コーパス)の入手のしやすさという調査環境の要因もあるが、「了解」自体が文章語であり、書かれた言語資料に多用されると考えられるからである。使用したコーパスについては、次節で述べる。

## 4. コーパス

調査対象とした言語資料は以下の 2 つである。(ただし、任意採集の例(2)を除く。)

・国立国語研究所 編(2005)『太陽コーパス —雑誌『太陽』日本語データベース— 国立国語研究所資料集 15』博文館新社 (以下「太陽コーパス」と呼ぶ)

・新潮社 編(1995)『新潮文庫 100 冊 CD-ROM』新潮社・ボイジャー・NEC インターチャネル (以下、「新潮文庫の 100 冊」と呼ぶ)

明治後期～大正の言語資料として、「太陽コーパス」を使用した。「太陽コーパス」に収められている資料の発行年は、1895(明治 28)年、1901(明治 34)年、1909(明治 42)年、1917(大正 6)年、1925(大正 14)年の 5 つの期間である。市販版のものを使用し、付属の検索ツール「ひまわり」で前述の 4 つの表記を検索し、実例の抽出を行なった。和語動詞「わかる」への当て字など、今回の調査対象外のもの手作業で削除した。

次に、明治大正期との比較・対照のための現代語の言語資料について述べる。本来であれば「太陽」と同様の総合雑誌の記事からとるべきであるが、資料の性質(雑誌記事か書籍か)の違いは、さほど大きく影響しないと判断し、「新潮文庫の 100 冊」から「太陽コーパス」以降である昭和(1926 年～)の資料を、1945 年より前と 1945 年以後に分けて調査した。明治大正期のもの、および、翻訳は除外した。「新潮文庫 100 冊」からの実例の抽出は、市販版を、小木曾智信先生(国立国語研究所准教授)が公開している「新潮文庫 CD-ROM コンバータしおまめ」を使い変換し、「ひまわり」で検索した。具体的な方法は「太陽コーパス」と同様である。

実例数を以下の表 1 にまとめる。それぞれのコーパスおよび年代区分で、実例の数はまちまちである。「新潮文庫の 100 冊」の昭和戦前は合計 4 例と極めて少なく、扱いに注意が必要であろう。

表 1 実例数(全体)

年代	太陽コーパス						新潮文庫の 100 冊		
	1895	1901	1909	1917	1925	合計	1926-44 昭和戦前	1945- 昭和戦後	合計
実例数	20	41	101	103	72	337	4	93	97

## 5. 調査結果

以下、まず 5.1 節で実例数など調査結果の概要と、本発表での結論の大枠を示す。つづく 5.2 節で、個々の実例を詳しく検討する。

### 5.1 概要

まず、意味の問題に入る前に、表記、および、品詞ごとに分けて示す。その後、本題である意味の違いごとに実例数を挙げ、表記、および、品詞との相関の有無を調べる。

表記について、表 2 にまとめる。( )の数字は、それぞれの年代ごとでの各表記の占める割合である。表記について、やはり圧倒的に【了解】が多く、次に【諒解】が多かった。【領解】と【領会】は、「太陽コーパス」にみられるが数は少なく、「新潮文庫の 100 冊」にはみられない。

表 2 実例数(表記別)

コーパス	太陽コーパス					新潮文庫の 100 冊	
	1895	1901	1909	1917	1925	1926-44 昭和戦前	1945- 昭和戦後
【了解】	19 (95)	34 (83)	72 (71)	79 (77)	37 (51)	3 (75)	73 (79)
【諒解】	0 (0)	1 (2)	14 (14)	19 (18)	35 (49)	1 (25)	20 (21)
【領解】	0 (0)	6 (15)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
【領会(會)】	1 (5)	0 (0)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	20 (100)	41 (100)	101 (100)	103 (100)	72 (100)	4 (100)	93 (100)

次に、品詞ごとの数を示す。( )の数字は、それぞれの年代ごとでの各品詞の占める割合である。

表 3 実例数(品詞別)

コーパス	太陽コーパス					新潮文庫の 100 冊	
	1895	1901	1909	1917	1925	1926-44 昭和戦前	1945- 昭和戦後
名詞	0 (0)	4 (10)	11 (11)	26 (25)	38 (53)	3 (75)	54 (58)
動詞	20 (100)	37 (90)	90 (89)	77 (75)	34 (47)	1 (25)	37 (40)
感動詞的	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
合計	20 (100)	41 (100)	101 (100)	103 (100)	72 (100)	4 (100)	93 (100)

品詞としては、名詞(「了解が」「了解を」など)と動詞(「了解する」)の場合が主であった。

加えて、とくに現代語の話し言葉において、相手の指示や要求への肯定の返答として感動詞的に使われる場合もある。次に例を1つ挙げる。

(3) 「ブンが、フン先生の家にあらわれたのだ。さ、はやく行け！」 「わかっています。で、フン先生というひとの家の所番地は？」 「市川市のはずれに下総の国分寺という有名なお寺がある。そのお寺の裏側の畑の中の一軒家だ」 「**了解**。いってきまーす！」 (井上ひさし ブンとフン)

感動詞的なものは、主に話し言葉で使われるものであり、「新潮文庫の100冊」では小説の会話文にごく少数見られた。「太陽コーパス」には1例も見られなかった。

今、感動詞的なものは措くとして、名詞と動詞を比較した場合、大まかに言って、19世紀末から20世紀はじめころまでは動詞として使われる場合が大多数を占めていたが、現代(昭和戦後)では名詞が過半数を占めていることがわかる。各年代をみても、実例数が極めて少なく確かなことが言えない「新潮文庫の100冊」の昭和戦前を除いて、年代が下るにつれて、動詞が少なく、名詞が多くなるという推移を見せている。

以下、本発表で問題となる、「了解」の意味ごとの実例数を挙げる。これ以降、「理解」としての意味を「意味A」、「理解+承認」としての意味を「意味B」とする。

意味Aか意味Bかの判断基準は、最終的にはテキストの読み手である発表者の判断ということになる。しかし、意味A、意味B、それぞれの意味が実現される言語的(さらに狭く言えば、構文的)な条件、つまり、「構文的な構造」(中山2009)を取り出すことが可能である。むろん、すべての実例で明確なわけではないが、可能なかぎりそれを記述し、5.2節で挙げることにする。ここでは、それぞれの代表的な例をいくつか挙げる。

・「太陽コーパス」意味A

(4) 市長が自分の俸給三千圓を減じた眞意は、どう考へて見てもその当時僕は甚だ**了解**に苦んだ。(東京市長としての奥田男：1917-13)<sup>2</sup>

(5) 併し博士は生物界に於ける共同生存の意義を充分に**了解**されて居ない様に見える。(『自然界の三大矛盾』に就て：1909-2)

・「太陽コーパス」意味B

(6) 中央亞米利加に移民を計畫し、明治廿七年グアテマラを探險して大統領、内閣員を訪問、その**了解**を得て廿七年七月の末に日本へ歸つて來た。(実業界の生活を顧みて：1925-10)

・「新潮文庫の100冊」意味A

(7) ホテルからしばらく歩くと、舗道に三、四十人くらい男たちが坐り込んでいるところに出くわした。意外な光景だったが、彼らが坐り込んでいる建物がデイリー・ニューズの社屋だということで**了解**できた。ニューヨークは新聞ストの真っ最中だった。(開高健 流亡記)

<sup>2</sup> 記事タイトルの後の数字は、それぞれ雑誌の発行年と号数を示す。

・「新潮文庫の 100 冊」意味 B

(8) その日から、私は内藤と朴との王座決定戦を実現するために動きはじめた。私がまず第一にしなくてはならなかったのは、内藤をはじめとする全員に「了解」をとることだった。これには問題がなかった。私の説明に対して、朴が若く未知のボクサーであることへの不安は表明されたが、決定戦そのものへの反対意見は出されなかった。(沢木耕太郎 一瞬の夏) ※例(1)再掲

(9) 星はとるものもとりにあえず、内務省衛生局へかけつけ、依頼した。「あの原料阿片の積出しはさしつかえないと、早く小樽に電報を打って下さるよう、お願いします。それによって、小樽水上警察署も「了解」してくれるはずになっております」(星新一 人民は弱し官吏は強し)

意味ごとの実例数を表 4 にまとめる。

表 4 実例数(意味別)

コーパス	太陽コーパス					新潮文庫の 100 冊	
	1895	1901	1909	1917	1925	1926-44 昭和戦前	1945- 昭和戦後
意味 A	20 (100)	41 (100)	98 (98)	89 (88)	50 (75)	1 (25)	22 (24)
意味 B	0 (0)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	17 (25)	3 (75)	69 (76)
意味 A+ 意味 B	20 (100)	41 (100)	100 (100)	101 (100)	67 (100)	4 (100)	91 (100)
判断が難しいもの	0	0	1	2	5	0	2
合計	20	41	101	103	72	4	93

やはり、「新潮文庫の 100 冊」では意味 B が大多数を占めるのに対し、「太陽コーパス」では意味 A が大多数を占めるという結果となった。「太陽コーパス」を年代ごとにみると、1895 年、1901 年では意味 A がすべてであったのが、1909 年になって意味 B がごく少数みられ、1917 年、1925 年と年代が下るにしたがって意味 B の占める割合が増えている。

意味 A か意味 B かの「判断が難しいもの」は、これ以降の分析から除外する。「判断が難しいもの」のうち、際立ったものとして、次のような、人(および組織)どうしの関係が問題となる例である。意味 A に近いと言えば近いが、面識・交流をもつというような意味であろうか。現代語の感覚では、なじまないような文脈に現れている。

(10) 交渉団体を爲さぬ無所属議員にして發言したる者は、前に長島隆二君、今回は押川方義、林毅陸の二君あるも、この人々は多少とも政黨に關係を有し、「了解」を有して居つたから其の便宜を得たのであつて、[後略] (徹頭徹尾党争の府：1917-9)

(11) 大軌社長——大阪奈良間電車の大槻龍治君は元の税關長時代から大阪三長老の一人で鳴した片岡直輝君と「了解」があつた。(大阪唯一の社交団たる大阪俱樂部に集る人々：1925-4)

(12) 申合としては綱領調査委員会を設けるに就て——綱領規約調査委員会はその性質上表面の形式は事務機関であるが、各團體間諒解の絶好の機会であるから之を利用して諒解に力めること——といふことになった。(無産政党组织準備委員会の主要団体及中心人物—委員会組織の過程及将来—：1925-12)

以下、意味と表記との相関、および、意味と品詞との相関についてみていく。

まず、意味と表記との相関について、表 5 にまとめる。表 5 は、先の表 4 での「判断が難しいもの」を除外し、それぞれの表記・年代ごとに、意味 A と意味 B の数を並べて示したものである。各セルで、上段の数字の左側が意味 A の実例数、右側が意味 B の実例数である。下段の( )のなかの数字は、意味 A と意味 B の実例数の割合である。

表 5 実例数(表記と意味の相関)

コーパス	太陽コーパス					新潮文庫の 100 冊	
	1895	1901	1909	1917	1925	1926-44 昭和戦前	1945- 昭和戦後
【了解】	19/0 (100/0)	34/0 0	70/2 (97/3)	74/3 (96/4)	31/6 (84/16)	1/2 (33/67)	19/52 (27/73)
【諒解】	0/0	1/0 0	13/0 (100/0)	10/9 (53/47)	19/11 (53/47)	0/1 (0/100)	3/17 (15/85)
【領解】	0/0	6/0 0	12/0 (100/0)	3/0 (100/0)	0/0	0/0	0/0
【領会(會)】	1/0 (100/0)	0/0 0	3/0 (100/0)	2/0 (100/0)	0/0	0/0	0/0
合計	20/0 (100/0)	41/0 (100/0)	98/2 (98/2)	89/12 (88/12)	50/17 (75/25)	1/3 (25/75)	22/69 (24/76)

【領解】【領会(會)】は意味 A でのみ使われている。しかし、年代との関わりをみると「新潮文庫の 100 冊」には例がなく「太陽コーパス」でも 1925 年にはない。つまり、意味 B が多く使われ始める年代にはそれらの表記の例自体がない。そのため、これら 2 つの表記が意味 A に限られるというより、意味に関わらずその表記自体が使われなくなった可能性が高い。

【了解】と【諒解】について、「新潮文庫の 100 冊」の昭和戦後では、両者とも、意味 A が圧倒的多数となっている。よって、現代語において、2 つの表記と意味の違いの相関は認められない。「太陽コーパス」では、【了解】と【諒解】とを比較すると、特に 1917 年と 1925 年で「諒解」のほうが意味 B で使われる割合が高い。しかし、【諒解】の実例数自体が少ないこともあり、【諒解】のほうが意味 B で使われやすかったとまでは言えない。

結論として、表記の違いと意味の違いの相関については、本調査では明確なことは言えない。どの漢字表記を使うかは、様々な要因があると考えられる。言語の側の要因のみならず、例えば「諒」は常用漢字ではないなど言語政策との関わりもあるだろう。

次に、意味と品詞との相関について、表 6 にまとめる。それぞれのセルの数字の示し方は先の表 5 と同じで、上段の数字の左側が意味 A の実例数、右側が意味 B の実例数、下段の( )のなかの数字は、意味 A と意味 B の実例数の割合である。

表 6 実例数(品詞と意味の相関)

コーパス	太陽コーパス					新潮文庫の 100 冊	
	1895	1901	1909	1917	1925	1926-44 昭和戦前	1945- 昭和戦後
名詞	0/0	4/0 (100/0)	9/2 (82/18)	12/12 (50/50)	17/16 (52/48)	0/3 (0/100)	4/49 (8/92)
動詞	20/0 (100/0)	37/0 (100/0)	89/0 (100/0)	77/0 (100/0)	33/1 (97/3)	1/0 (100/0)	18/18 (50/50)
感動詞的	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/2 (0/100)
合計	20/0 (100/0)	41/0 (100/0)	98/2 (98/2)	89/12 (88/12)	50/17 (75/25)	1/3 (25/75)	22/69 (24/76)

前述(表 3)のとおり、意味に関わらず、動詞がほとんどすべてであったのが、名詞が徐々に多くなるという推移をみせている。加えて、表 6 の通り、品詞と意味との相関においても、名詞と動詞との間に際立った差が見られる。「太陽コーパス」では、動詞においては年代を問わず意味 A がほとんどすべてであるのに対し、名詞においては特に 1917 年以降、意味 B も比較的多くみられる。一方、「新潮文庫の 100 冊」の昭和戦後では、名詞の場合ほとんどすべての例が意味 B であるのに対し、動詞の場合は意味 A と意味 B がほぼ半々で、動詞では、意味 B への移行が名詞よりも遅れていることが分かる。

## 5.2 意味 A・意味 B それぞれの構文的な構造

以下では、紙幅の都合上、ごく簡単にではあるが、意味 A、意味 B それぞれの実現をささえる構文的な構造を、「太陽コーパス」の個々の実例を挙げながら述べる。

### 5.2.1 「意味 A」をささえる構文的な構造

・動詞の場合

[名詞(抽象的な事柄)ヲ 了解スル]

(13) 併し博士は生物界に於ける共同生存の意義を十分に了解されて居ない様に見える。  
(『自然界の三大矛盾』に就て：1909-2) ※例(5)再掲

(14) 斯くては到底虚心平氣に韓人の真相を領解すべき餘地あるべからず。治下人民の性情を領解する能はずして一に獨自己の見解によりて萬般の施設を運らす、運らす所巧妙ならざるにあらざるも、殆んど手答へなく、概ね失敗に了るは見易き道理なり。(政治、外交 統監政治の失敗：1909-6)

(15) 其人もし佛語を知るか試に佛語を以て法學上の事を質問すれば、氏は聲に應じて佛語を了解す、必要あらば流暢なる佛語を以て答へらる。(フルベツキ博士とヘボン先生：1985-7)

抽象的な事柄を表わす名詞について、具体的には、社会的な事柄(「英国人の生活状態」「時代の真相」「その国民の思想」)、科学・学術(「精子の作用」「沈殿岩の特性」「日本画の歴史」)、人の内面(「僧の苦心」「政府の意」)、言語(「佛語」「外國語」)など様々なものが来る。「太陽コーパス」ではこの種の例が圧倒的に多く、「太陽コーパス」全体のほぼ半数の約 150 例を占める。



以下、それ以外の構文的な構造についてまとめる。

[節(疑問詞疑問文+カ(ヲ) —抽象的な事柄や一般的事実—) 了解スル]

(16) 人民は無識にして未だ憲政の何たるかを了解せざるものが多い。(欧州大戦と露国の革命：1917-5)

(17) 日本は過去の二大戦役に於て戦争の物質的精神的代償の如何なるものかを了解したり。戦争は日本の発展を妨げしを悟りたり。(外人の日本観：1909-5)

[節(一般的事実)コトヲ 了解スル]

(18) 古來最も有力に統一を妨げたるものは交通の不便なるに在りしことを適切に了解するものは、同時に世界統一の大業を促進するの大勢力は實に交通機關の發達なることを自ら了解するならん。(平和と世界の統一(強国論)：1917-4)

(19) 若夫、普通片々たる記者であるならば、忽ち倨傲尊大の風をなし、自己廣告を盛にする場合であるのに、何等如此の態度なかりしは、決して三文評論家でない事を了解せしむるに足る。(故春汀鳥谷部銃太郎君：1909-2)

・名詞の場合

[名詞(事柄)ハ／節(一般的事実)ハ／節(疑問詞疑問文)+カ、了解ニ苦シム]

(20) 市長が自分の俸給三千圓を減じた眞意は、どう考へて見てもその當時僕は甚だ了解に苦んだ。(東京市長としての奥田男：1917-13) ※例(4)再掲

(21) 是は獨逸の爲めには非常に不利益な譯で、今後獨逸は果して何國をたよりとする積であるか、吾輩などは如何も了解に苦しむ、[後略] (米独国交断絶の側面観：1917-3)

[名詞(事柄)ハ／節(一般的事実)コトハ 了解ガ デキル]

形の上から名詞としたが、動詞としての「了解する」の可能形「了解できる」に近い。

(22) 女性が生む力に恵まれてゐる所以は、此感情の優越性なるを以てしても了解が出来るであらう。それ故女性は、先天的に男性よりは美の本質に秀れ、女性でさへあれば如何なる女性でも、男性が如何なる男性でも美しいとは云ひ得ざるに反し、美しい點を發見し得るものだと考へてゐるのである。(現代の女性美：1925-1)

## 5.2.2 「意味 B」をささえる構文的な構造

5.1 節で述べたように実例の数は少ないが、意味 B について同様にみていく。

[名詞(人など)ノ 了解ヲ 得ル]

(23) 中央亞米利加に移民を計畫し、明治廿七年グアテマラを探險して大統領、内閣員を訪問、その了解を得て廿七年七月の末に日本へ歸つて來た。(実業界の生活を顧みて：1925-10) ※例(6)再掲

(24) 加藤が憲政擁護運動に参加したのは、平田(内大臣)の諒解を得た後に決心したのだ。平田は寧ろ憲政擁護を煽動したと言つても可からう。(政界煙話…議会解散か内閣瓦解か… : 1925-2)

〔名詞(人など)ノ 了解ヲ 求メル・乞フ〕

(25) 『然らば、何うすればよいのか。』と、岩倉公が云つた。『諸公の腹一つ。』『勿論、獨立國の威嚴を保たなくてはならぬが、その方策は何うするか。』『その御覺悟なら、彼等の干渉を斥けなさるがよい。不肖大隈、其の任に當つて、長崎以來の経過をのべ、彼等の諒解を求めることに致しても差支へない。』(明治初年外交物語(その五)邪教退治の腹芸 : 1925-2)

(26) 然るに學校の出身者や関係者は、何故校葬にしないのかと云つて自分を責め、その辯解に困らされた位であつた。當日の夕方穂積陳重さんは態態私の家に来て、是非校葬にして貰ひたいとのことであつたが、これにも事情——初め自分の専斷で校葬にするつもりでゐた——を話して其諒解を乞ふたやうな始末であつた。(中央大学経営者としての奥田男 : 1917-13)

## 6. まとめと課題

本発表の結論をまとめる。「太陽コーパス」では、「了解」がサ変動詞として使われた場合、年代を問わずほとんど全て意味 A で使われている。その場合、動作の対象は、抽象的な事柄や一般的事実が大多数である。一方、名詞の場合は特に 1917 年以降、意味 B が現れている。「新潮文庫の 100 冊」のうち昭和戦後では、名詞の場合は意味 B がほとんどなのに対し、サ変動詞の場合は意味 A と意味 B とが半々と、意味 A もある程度みられる。このことから、意味の変遷を推察すると、「了解」は 1910 年代頃までは名詞であれサ変動詞であれ意味 A で使われていたが、1920 年前後から名詞の場合で意味 B が生じ、その後、特に名詞の場合を中心に意味 B が広がり優勢となったと考えられる。

本発表で明らかとなった別の事実、(意味と関わらず)動詞としての使用が優勢だったのが名詞としての使用が優勢になりつつあることと、上記の意味変化との理論的な関係については、今発表だけでは明確なことは言えない。

最後に、本調査の問題点として、「太陽コーパス」の調査に重きをおいたため、それ以降の年代の調査がやや不十分であった。特に、もっとも「現代」に近い年代区分が「1945 年以降」であり、すでに 60 年以上の期間がある。「太陽コーパス」以後についても、十分な実例を収集し、年代区分を細かく行ない調査を行なう必要がある。

## 文 献

金田一春彦・池田弥三郎 編(1988[1978])『学研国語大辞典 第二版』学習研究社  
松村明・三省堂編修所 編(2006[1988])『大辞林 第三版』三省堂

中山健一(2009)「動詞「くる」と「いく」の多義構造の違いについて」『コーパスに基づく言語学教育研究報告 1』、pp.191-217、東京外国語大学大学院グローバル COE プログラム コーパスに基づく言語学教育研究拠点